

れる)がX線の不透過としてフィルムに現れていると見ることができ。頼朝像の場合はこの表から賦された肌の白味が強い。そのため後の補筆と疑われたのであったが、そのような補筆は全く加えられていない。なお、表から賦された肌色は顕微鏡による観察では朱の粒子が認められ、鉛白と朱の混色である。

袍の部分も裏は具墨で彩色されている。これ等の部分は三像共に顔面程強くはないがやはりX線の不透過性を示している。黒は墨以外の使用を考えられないが、墨はX線を完全に透過してしまうので、袍には墨に鉛白を混ぜていると思われる。袍の黒い色の発色を観察すると、表と裏とでは差が認められる。光能像では表の黒の彩色も沈んだ発色を示しているが、頼朝像、重盛像では黒に艶があり、特に頼朝像ではそれが著しい。おそらく裏は墨に鉛白を混ぜた具墨を賦し、頼朝像、重盛像では、表から墨を賦していると思われる、特に頼朝像の場合は膠気の強い墨を用いているように思われる。漆を塗布することも考えられるが不確定である。袍の地紋は地の墨色に比べ発色が重く、かつ量感があり、墨に何かを混ぜていると思われるが、頼朝像の特定の極く一部の模様以外はフィルムに写し出されていない。(挿図1参照)

なお袍の賦彩で注意すべきは、頼朝像と重盛像の場合、墨の量しが増えられていること、また頼朝像では地紋を描くために墨線で升目を引き、一単位の紋様が崩れずに繰り返すようにしていることである。この地紋の描写のための升目は他の二像では認めることはできなかった。

〈その他〉

この度の修理で肌裏の打ち替えを実施したことによって、裏彩色

の様子が明かとなったが、もう一つ重要な発見があった。それは刀の柄の部分である。(挿図2・3参照)仕上げられた刀の柄は毛抜き太刀のそれであるが、裏に描かれた柄は兵庫鎖形のそれである。これは作画の計画が途中で変更したことを示すものであるが、この変更は、三幅の画像の制作年代を廻つての論議の中で表明された模本説の疑いを晴らす証となるであろう。

(渡辺明義)

2. 紺紙銀字華嚴経残巻(二月堂焼経)

二十巻

指定年月日 重要文化財(昭和五十三年六月十三日)

修理年度 昭和五十四年度・五十五年度継続

補助事業者 東大寺(奈良市雑司町)

修理施工者 藤岡新三

修理担当者 尾崎二朗

一、序

この写経は奈良時代中期写経生によって書写された『大方廣佛華

『嚴經』六十卷本（旧訳、東晉 仏駄跋陀羅訳）で、文字は謹嚴に整齊な楷書で書写され、奈良時代の紺紙銀字經の類例稀れな遺品として尊重されている。この写經が江戸時代に東大寺二月堂に伝世されていた時、寛文七年（一六六七）二月十四日二月堂の火災で罹災し、各巻下方（一部上方）を焼損した。そのため「二月堂焼經」と通称されるようになった。焼損後この写經は延宝六年（一六七八）に紺紙で裏打ちされた（『二月堂修中練行衆日記』）が、その後相当数の遺巻が寺外に出、今日諸所にその断簡が珍藏されている。因みに同經は原姿を伝えるものは稀れで、一卷完存する遺巻として次の二巻がそれぞれ重要文化財に指定されている。

紺紙銀字華嚴經卷第一 一卷 群馬県 岡村隆造

紺紙銀字華嚴經卷第卅六 一卷 東京都 根津美術館

この東大寺所蔵分は今回修理前、巻第十二と巻第五十九の二巻が卷子装で伝存していた以外は、一時屏風に貼られたため、横巾六十センチと五十五センチの二種に任意に切断あるいは継ぎ合わされた六十枚の残簡であった。それを昭和五十三年に重要文化財に指定するに際して復元整理し、その結果残巻二十巻に編成した。今回の修理はその指定時の整理に基づいて成巻し、料紙の補修を併せおこなったものであるが、特殊状態にある物件の修理であるのでここに紹介することにした。修理前の切り継ぎの状態、修理後復原巻次は別表の通りである。なお旧来から卷子装で伝わった巻第十二は七紙の残巻で、また巻第五十九は第六紙一紙を欠くのみで首尾揃っている（但、表紙・見返・軸は後補である）。

二、修理概要

各巻の料紙の現状は、ほとんどの料紙の下部（巻第四十一と巻第四十七は上部）が焼損している。焼損部分は紺紙が焦茶色に変色して焼け焦げていて、甚しく脆弱化している。その部分には江戸時代の修理で裏面に後補の紺紙が貼付されていた。しかし褐色に焼け焦げた焼損部分はほとんどが糊離れして、剝落寸前の危険な状態であった。以下修理の工程と要点について略解説する。

イ、修理工程

- (1) 修理着工に先立ち修理前の状況を把握しておくため、全料紙を35ミリフィルムに撮影した。
- (2) 解装にあたり本紙の焼損部分の剝落をできるだけ防止するため、本紙の表面にレーヨン紙で仮張りをほどこした。
- (3) 旧裏打ちおよび旧補修の紺紙を除去した。
- (4) 原初の紙継目以外の後の各継目を離し、改めて表より養生のためレーヨン紙・美濃紙で仮張りをほどこした。
- (5) 各本紙の裏面に美濃紙で仮肌裏打ちをほどこし、仮張りした。
- (6) 仮張りより離し、本紙裏面上端（一部下端）を小刀で削って薄くし、その部分に旧裏打ち紺紙で数ミリ巾の足し紙を付し、今後上端部（一部下方）の保護とした。
- (7) 本紙下方（一部上部）の焼損欠失部分に、旧裏打ちの紺紙を選んで補修紙として貼付した。その際本紙の紺色の濃淡により、補修

紙の色もできるだけ本紙に合わせた。

(8) 補修紙と本紙の重なりを少なくするため、その部分の補修紙を小刀で削り取った。

(9) 本紙の仮肌裏打紙を除去し、あらためて紺色に染めた美栖紙で本紙（補修紙部分を含む）全面に肌裏打ちをほどこした。

(10) 本紙の折れに対し裏面より折伏せをほどこして補強し、仮張りした。

(11) 仮張り後、復原表に従って本紙を原一紙に継ぎ合わせ、本紙不連続（経文が切断欠失）の箇所には新調紺紙で隔紙（一寸巾）を入れた。巻首あるいは巻尾欠失の場合も一寸巾の隔紙を附した（新調紺紙については後述）。

(12) 紺色に染めた美栖紙で増裏打ちをほどこした。

(13) 総裏紙は本紙の質と、紺色濃淡に合わせて三種に染め分けて新調、本紙の色に合わせて一紙ごとに総裏打ちをほどこし、仮張りした。

(14) 仮張りより離し、各紙を継ぎ合わせ、また仮張りした。

(15) 表紙・見返は無地紺紙を新調し、紺色美栖紙を間に入れて貼り合わせ作成した。

(16) 軸巻紙も紺紙で新調、太巻軸で二巻き分（一尺三寸〓三九・四センチ）付した。

(17) 本紙・表紙見返・軸付紙とも仮張りで十分乾燥後、仮張りより離し、各継ぎ合わせて仕上げた。

(18) 軸木、軸首（紫檀撥型軸）、発装竹、紐（紫平打紐）を各新調し、それぞれを付した。

(19) 本紙養生のため各巻軸に枯木桐太巻軸（木口詰、径一寸八分〓五・四センチ）を付した。

(20) 保存箱として、枯木桐屋郎中箱（五卷入、枕と蓋付）四箇と資料入箱一箇、それらの外箱として上下戸棚板入外箱（げす板、引出付）一合を新調した。

口、修理の要点

修理について特に留意した点を記しておく、

(一) 本件は修理前、本来の巻次、旧紙継ぎが大分錯乱していたのを、可能な限り原に復した。これには東大寺図書館新藤佐保里女史の尽力に負うところが大きであった。なお原巻次は奈良時代写経のため、後世の宋・元版や大正新脩大藏経本と異っている点も考慮した。

(二) 修理に際し、本紙の焼損変質の残存部分の剝落をできるだけ防止することに、修理技術者の多大の努力が払われた。

(三) 本紙の焼損欠失部分の補修紙に、旧補修の紺紙が最大限活用された。書跡の修理で第一に問題になるのは本紙に合った補修紙の確保であるが、本件の場合新しく作成した紺紙よりも、旧補修の江戸時代の紺紙が、色・質・風合いの点でより適合し、最大限に活用できたことは幸いであった。

(四) 本紙の補修で、本紙と補修紙の重なり部分を薄く削る際、紺紙は下からの光を透しにくいので、周囲を暗室にして下から光をあてて作業を進めるなど、技術者の苦勞があった。

(五) 新調した総裏打紙は、本紙が麻紙系なので、それに似せるため、三桎を六・雁皮を四の割合いにせんにを交えて漉いた。色も本紙の紺色に濃・淡があるため、濃・淡四種に染め分けた。表紙はやや

厚地で濃紺一色に、見返は紺色無地で本紙との異和感を少なくするため、これも濃・淡三色に染め分けた。なお紙漉きは滋賀県大津市住成子ちか氏(県指定無形文化財保持者)、紙染めは同県野洲町の森卯一氏(国選定保存技術保持者)があたった。

(六)新調した総裏打紙および表紙・見返紙は、せんのせい水分を含めるとも毛立ちが甚しく、それをおさえるために表面に薄い礬水(どうさ、膠水に明礬を加える)をひいた。

(七)表紙・見返は幸い二月堂焼経の巻第一(重文)が紺色原表紙(無文様、銀字外題、見返も紺地)で残っているので、それに倣い紺色無地紙にした。軸は残存例がないので、紫檀撥型軸を付した。その上脆弱化した本紙焼損部分の保護のため、各巻に桐太巻軸(径一寸八分)を装した。また経巻を開披する際の本紙(焼損部分)保護のため、表紙と本紙を巻く太芯として、厚紙筒(径一寸八分)二本を作成し、新調箱と一緒に収めた。

(大山仁快)

II 修理後復原巻次表

巻次	第紙	(仮㊟一紙順)行	第紙	(仮㊟一紙順)行	第紙	(仮㊟一紙順)行	第紙	(仮㊟一紙順)行	第紙	(仮㊟一紙順)行
第三巻	7	(㉔-2)20(㉗-1)8	8	(㉗-2)19	16	(㉗-2)5(㉗-1)20尾	5	(㉗-3)29	6	(㉗-4)29
四	9	(㉙-1)28(㉚-1)1	10	(㉚-2)29	15	(㉚-1)28				
五	14	(㉛-3)2	15	(㉛-1)26	15	(㉛-1)28				
一〇	3	(㉜-2)17(㉝-1)11	4	(㉜-2)17(㉝-3)2	4	(㉜-2)29				
一一	1	(㉞-2)8首(㉟-1)16	3	(㉞-1)29	4	(㉞-2)29				
	7	(㊱-5)25								
一五	1	(㊲-2)8首(㊳-1)19	2	(㊳-2)13(㊴-1)16						
一六	5	(㊵-2)4(㊶-1)24	6	(㊵-2)7(㊶-2)9(㊷-2)12	9	(㊷-2)5(㊸-1)24	10	(㊸-2)8(㊹-1)21	15	(㊹-2)16(㊺-1)13
	16	(㊻-2)15尾								
二〇	5	(㊼-1)28	6	(㊼-1)28	15	(㊼-1)28	16	(㊼-2)3(㊽-1)25	18	(㊽-1)28
二二	5	(㊾-1)29	6	(㊾-2)3(㊿-2)14(㊿-1)12						
	19	(㊿-2)3(㊿-1)24								
二三	1	(㊿-1)26	2	(㊿-2)7(㊿-1)22	3	(㊿-1)29	4	(㊿-2)3(㊿-1)26	5	(㊿-1)28(㊿-1)1
	6	(㊿-2)29	11	(㊿-2)6(㊿-1)23	12	(㊿-2)10(㊿-1)19				
二五	2	(㊿-1)27	3	(㊿-2)0.5(㊿-1)27.5	4	(㊿-2)3(㊿-1)25	5	(㊿-2)7(㊿-1)21	6	(㊿-2)10(㊿-1)18
	7	(㊿-2)13(㊿-1)14	8	(㊿-2)13						
二六	9	(㊿-2)4(㊿-2)3(㊿-1)22	10	(㊿-2)10(㊿-1)18						
四一	6	(㊿-1)25(㊿-1)3	7	(㊿-2)28	13	(上部残損)	14	(㊿-2)12(㊿-1)16	15	(㊿-2)11尾
四七	9	(㊿-2)3(㊿-1)25	10	(㊿-2)6(㊿-1)22	13	(㊿-2)9(㊿-1)19	14	(㊿-2)12(㊿-1)16		
五二	1	(㊿-1)27首	2	(㊿-2)1(㊿-1)28	5	(㊿-2)10(㊿-1)18	6	(㊿-2)13(㊿-1)15		
五三	1	(㊿-1)26首	2	(㊿-2)1(㊿-1)27	5	(㊿-2)10(㊿-1)18	6	(㊿-2)13(㊿-1)15		
五四	1	(㊿-1)23	2	(㊿-2)5(㊿-1)23	3	(㊿-3)11(㊿-1)18	4	(㊿-2)14(㊿-1)15		
五七	3	(㊿-2)16(㊿-1)13	4	(㊿-2)19(㊿-1)10	7	(㊿-2)22(㊿-1)7	8	(㊿-2)25		
五八	2	(㊿-2)13(㊿-1)15	3	(㊿-2)12.5(㊿-1)15.5	6	(㊿-2)9(㊿-1)15.5	7	(㊿-2)12		
五九	1	(㊿-1)28首	2	(㊿-2)29	3	(㊿-3)29	4	(㊿-4)29	5	(㊿-5)29
	7	(㊿-6)28	8	(㊿-7)29	9	(㊿-8)28	10	(㊿-9)28	11	(㊿-10)28
	12	(㊿-11)28	13	(㊿-12)28	14	(㊿-13)7尾				

表中、○数字は表Iの仮№、その後の()内数字は表Iの仮紙順、()外数字は現存行数を示す。
また、首とあるは首題が、尾とあるは尾題が存することを示す。

I 修理前切り継ぎ状況一覧表

仮順 仮No	(1紙)			(2紙)			(3紙)			仮紙数	仮行教	仮寸法cm	備考
	原巻次	原紙順	行数	原巻次	原紙順	行数	原巻次	原紙順	行数				
①	五二	2	28	一六	5	4				2	32	61.9	
②	五三	2	27	一六	9	5				2	32	62.0	
③	一六	9	24	一六	10	8				2	32	61.9	
④	一六	5	24	一六	6	7				2	31	62.3	
⑤	二二	5	29	二二	6	3				2	32	62.2	
⑥	一六	10	21	五四	3	11				2	32	62.3	
⑦	五四	3	18	五四	4	14				2	32	61.9	
⑧	五八	3	15.5	五七	3	16				2	32	61.9	
⑨	五七	3	13	五七	4	19				2	32	61.8	
⑩	五七	4	10	五七	7	22				2	32	62.4	
⑪	五七	7	7	五七	8	25				2	32	61.7	
⑫	四	9	1	四	10	29	五	14	2	3	32	62.2	
⑬	五	15	26	五	16	5				2	31	61.8	
⑭	五	16	20尾	一五	1	8首				2		61.8	
⑮	一五	1	19	一五	2	13				2	32	62.0	
⑯	五四	2	23	五八	6	9				2	32	61.7	
⑰	二二	18	28	二二	19	3				2	31	62.0	
⑱	二二	19	24	一二	1	8首				2	32	61.7	
⑲	一二	1	16	一六	15	16				2	32	61.7	
⑳	二五	3	27.5	二五	4	3				2	30.5	62.0	
㉑	二五	4	25	二五	5	7				2	32	61.9	
㉒	二五	5	21	二五	6	10				2	31	62.0	
㉓	二五	6	18	二五	7	13				2	31	62.0	
㉔	二〇	6	28	二六	9	3				2	31	61.8	
㉕	二六	9	22	二六	10	10				2	32	61.8	
㉖	二二	15	28	二二	16	3				2	31	62.0	
㉗	二六	10	18	二二	6	14				2	32	61.8	
㉘	二二	6	12	三	7	20				2	32	61.8	
㉙	二三	1	26	二三	2	7				2	33	61.8	
㉚	二三	2	22	五三	5	10				2	32	62.2	
㉛	五三	5	18	五三	6	13				2	31	61.9	
㉜	五三	6	15	一〇	3	17				2	32	62.0	
㉝	二三	5	1	二三	6	29	一〇	4	2	3	32	61.8	
㉞	二三	4	26	二三	11	6				2	32	61.9	
㉟	二三	3	29	二三	4	3				2	32	61.9	
㊱	二三	11	28	二三	12	10				2	33	62.2	
㊲	四一	6	3	四一	7	28				2	31	62.0	上部焼損
㊳	四七	9	25	四七	10	6				2	31	62.0	//
㊴	四七	10	22	四七	13	9				2	31	61.6	//
㊵	四七	13	19	四七	14	12				2	31	62.1	//
㊶	五三	1	26首	五三	2	1				2		55.1	
㊷	五二	1	27首	五二	2	1				2		54.8	
㊸	二二	16	25	二六	9	4				2	29	55.0	
㊹	五四	4	15	五八	2	13				2	33	57.0	
㊺	五八	2	15	五八	3	12.5				2	27.5	54.4	
㊻	二〇	5	28							1	28	55.1	焼損少
㊼	三	7	8	三	8	19				2	27	54.9	
㊽	五八	6	16	五八	7	12				2	28	54.8	
㊾	四	9	28							1	28	54.8	
㊿	一〇	15	28							1	28	55.0	
①	一五	2	16	一六	6	12				2	28	54.7	
②	一〇	3	11	一〇	4	17				2	28	55.5	
③	五四	1	23	五四	2	5				2	28	54.9	
④	一六	15	13	一六	16	15尾				2	28	54.4	
⑤	二三	12	19	一六	6	9				2	28	54.6	
⑥	二三	5	28							1	28	54.7	
⑦	四一	6	25	四七	9	3				2	28	54.5	上部焼損
⑧	二五	2	27	二五	3	0.5				2	27	54.1	
⑨	二五	7	14	二五	8	13				2	27	54.2	
⑩	四七	14	16	四七	15	11尾				2	27	54.3	
⑪	一二	3	29	一二	4	29	一二	5	29				
⑫	一二	6	29	一二	7	25				5	141	270.2	卷子装
⑬	五九	首1～尾14 (第6紙欠)								13		715.8	//

表中、首とあるは首題が、尾とあるのは尾題があることを示す。

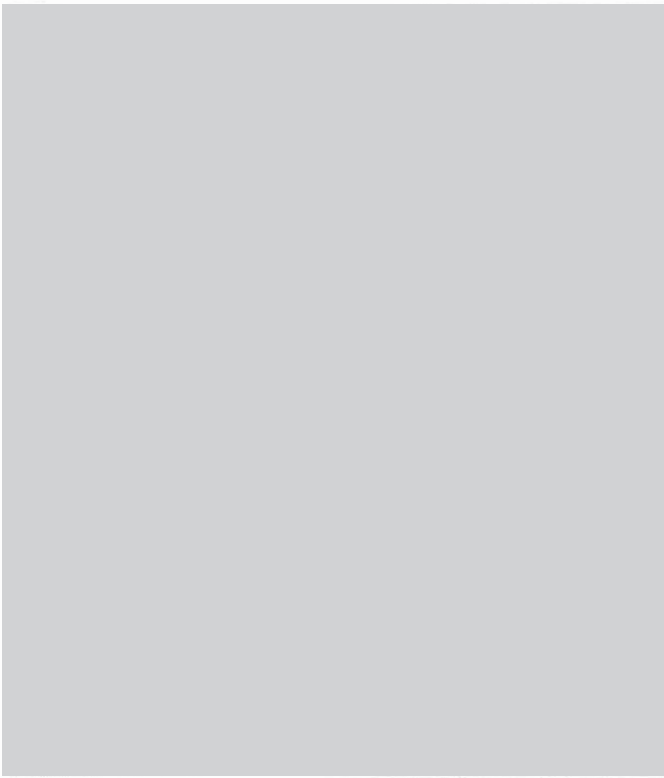


図1 伝源頼朝像(頭部X線) 神護寺

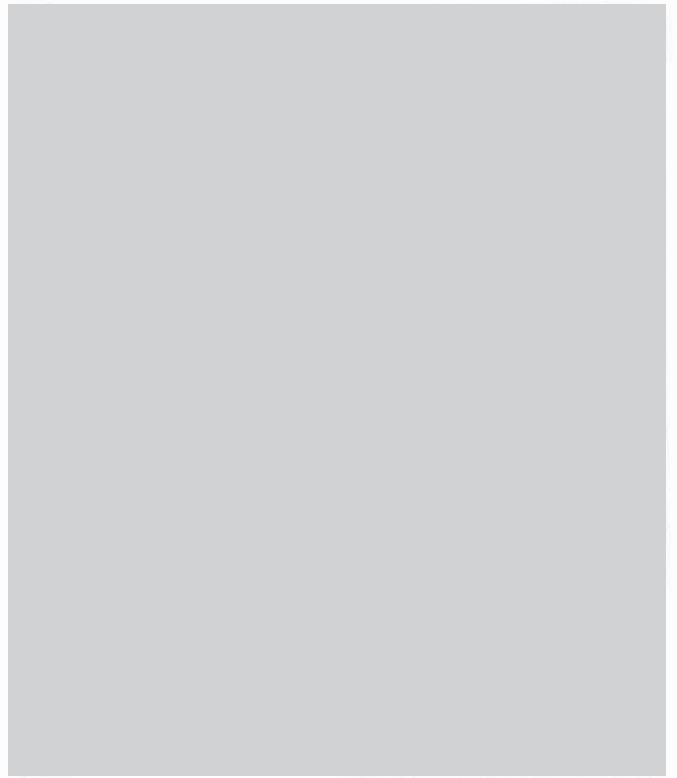


図2 伝平重盛像(頭部X線) 神護寺

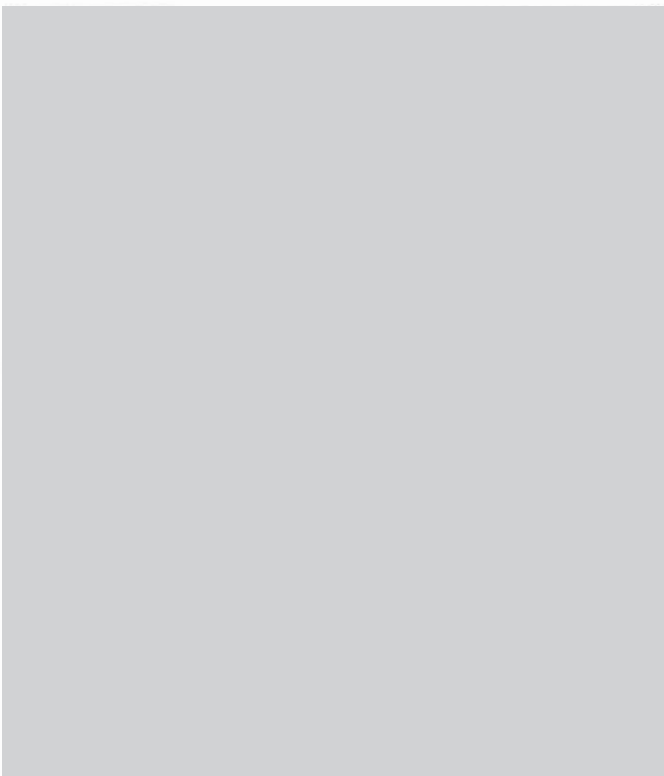


図4 伝藤原光能像(透過) 神護寺

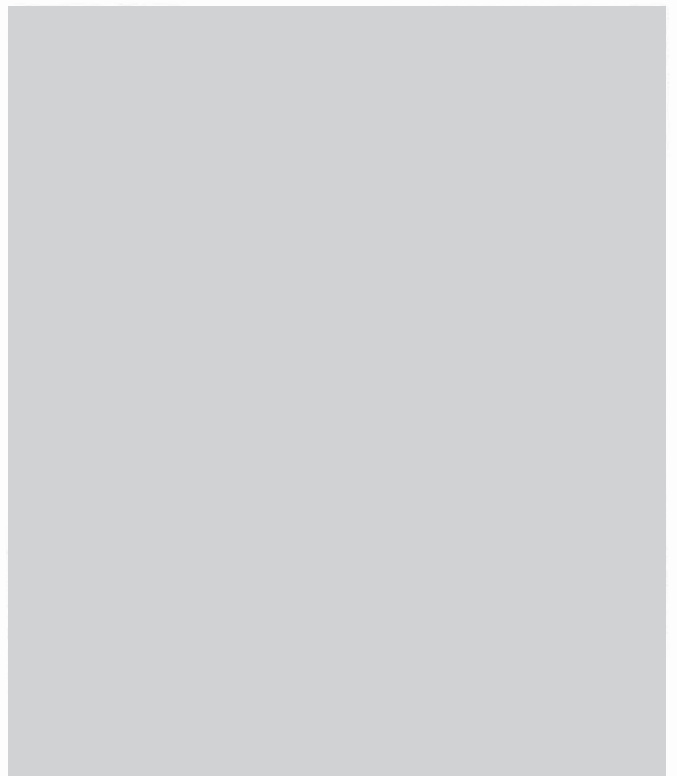


図3 伝藤原光能像(頭部X線) 神護寺

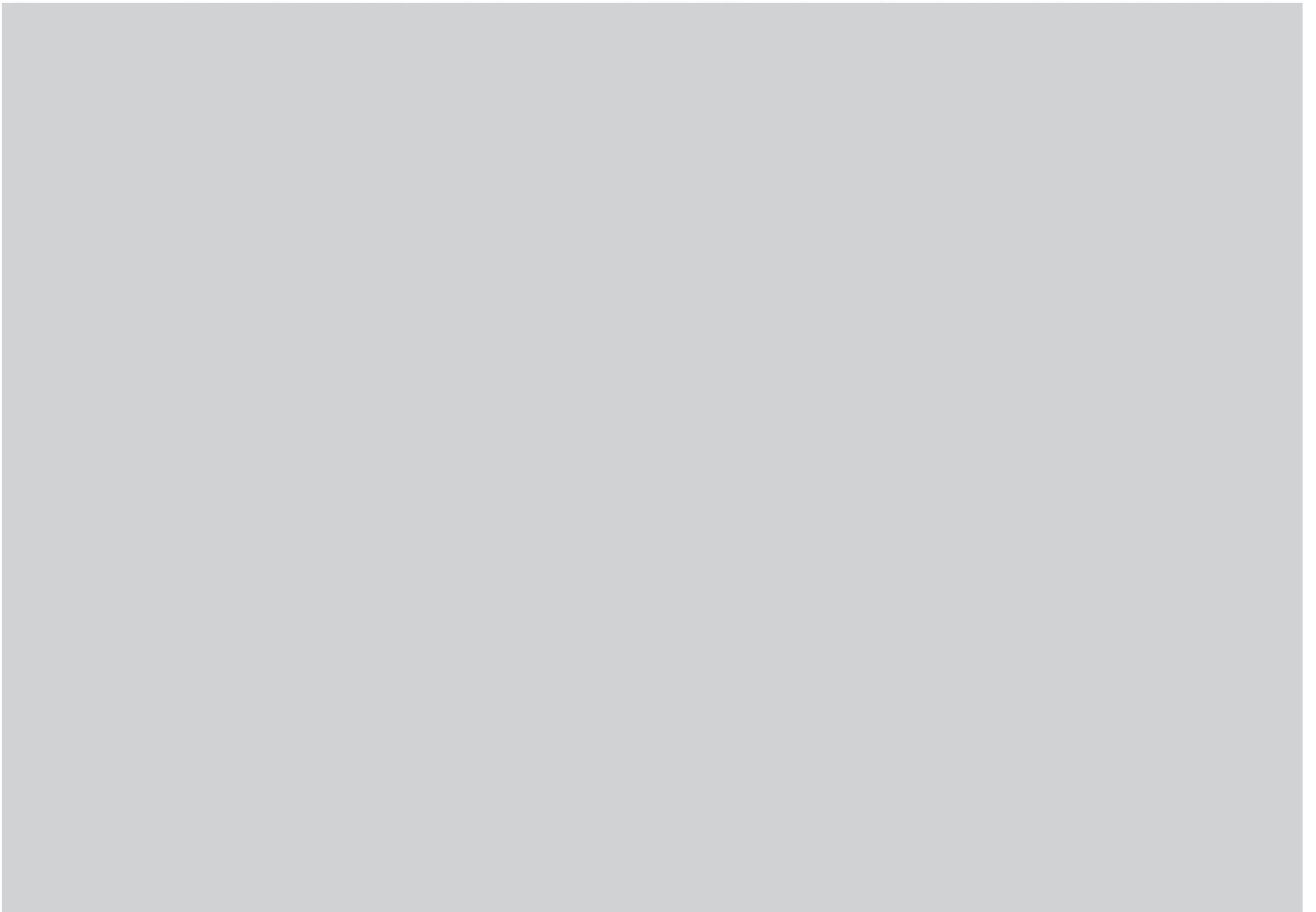


図5 紺紙銀字華嚴經残卷(修理前) 東大寺

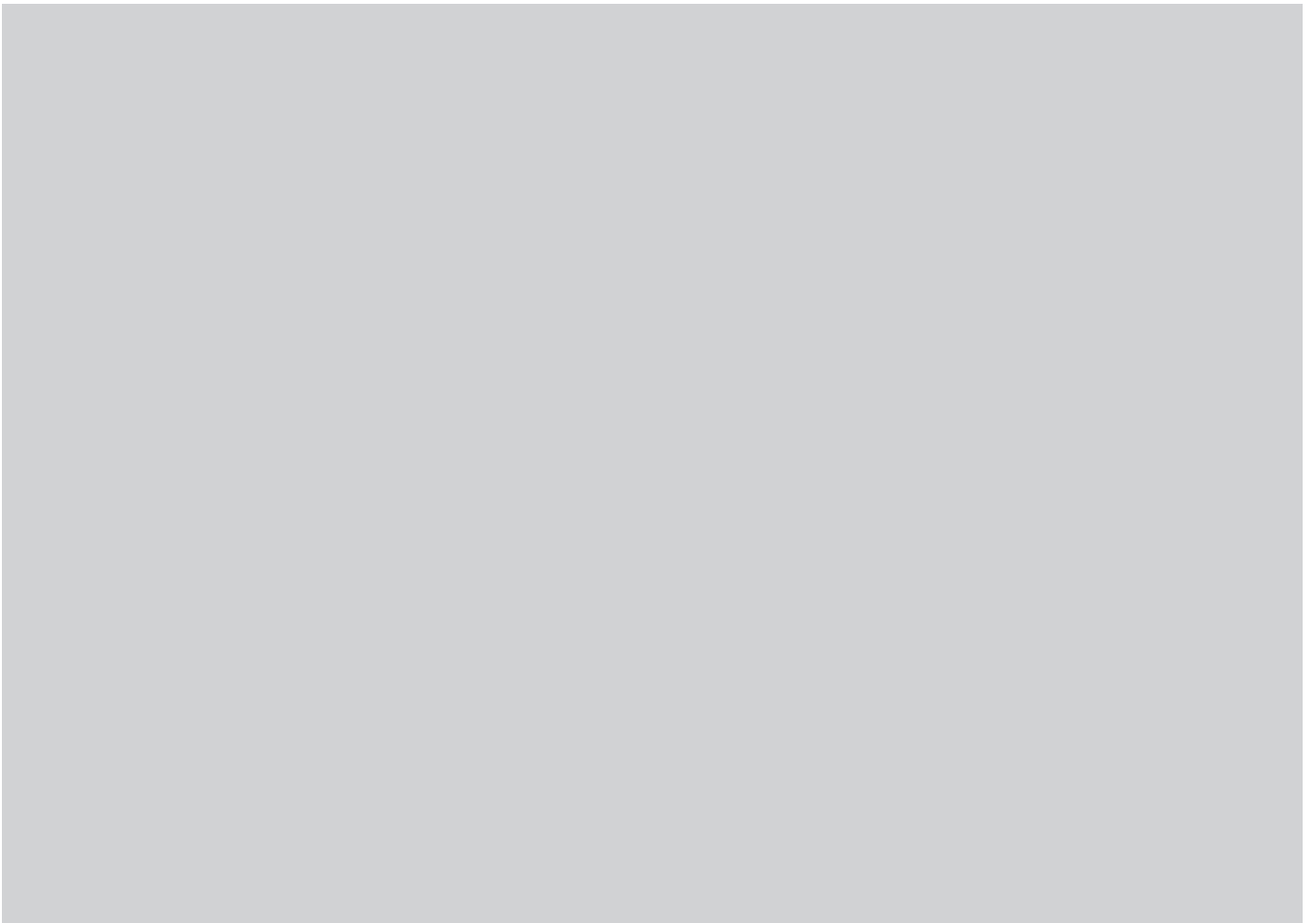


図6 紺紙銀字華嚴經残卷(修理後) 東大寺